

ジャガイモ (ナス科)

春作：男爵、メークイン、キタアカリ
秋作：農林1号、タチバナ

1 作業体系

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作業体系	植え付け ◎	追肥・土寄せ -----			収穫 □□			◎	-----	□□

2 ここがポイント!

- ・生育適温は15~20℃で、高温になるほど太りが悪くなり、30℃以上になるとイモの肥大は停止します。
- ・作期に適した品種、種イモを選びます。春作は北海道産、秋作は九州産が適当で、必ず検定済みを購入します。
- ・イモは過湿に弱いので、排水を完全にし、腐敗を防ぎます。
- ・秋作は、涼しい場所で催芽させてから植え付けた方が生育はよく揃います。また、地上の茎葉は春作ほど大きくなりませんが、イモはよく付きます。

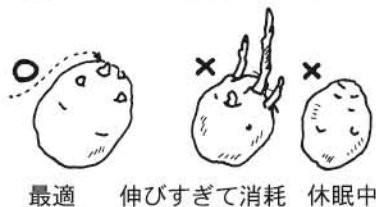
① 畑の準備

土壌はとくに選びませんが、必ず排水の良い畑を選びます。

② 植え付け

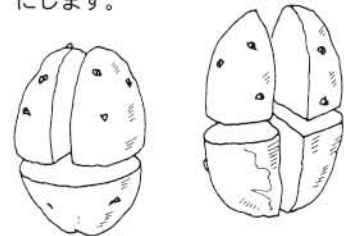
種イモは1ヶ70~80gのものが適します。

1ヶの大きさが35~40gとなるよう植え付けの2~3日前に縦に2つに切断し、切り口を乾かしておきます。

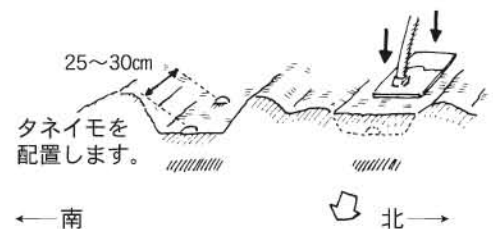


縦に切り各片に芽が同じくらいに付くように

大きなイモは3つ切りまたは4つ切りにします。



種イモは、条間60~90cm、株間25~30cmに植え付けします。畝の中央部に深さ15cmの溝を掘り、基肥の発酵鶏糞を施してから5cm土を埋め戻します。種イモは切り口を下にして植え付け、5~10cm覆土します。

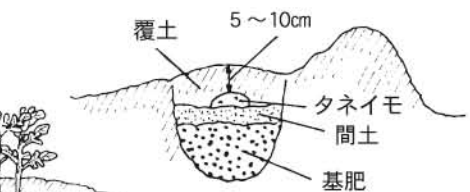


③ 芽かき

芽の数が多いとイモは多く付きますが、小イモになりやすいので、芽が10cm程度に伸びた時、生育の良い2本を残して芽かきします。

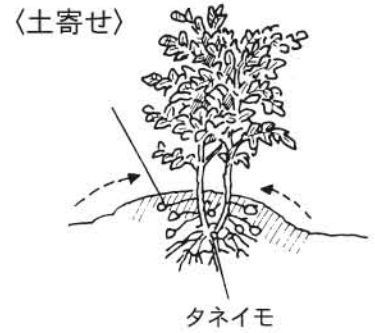


手のひらで押さえ、倒すようにかき取ります。



④ 追肥・土寄せ

芽が15cm位の頃1回目、その15日後に2回目の追肥・土寄せを行います。土寄せが少ないとイモが露出し、緑化するので十分行います。生育期間の短い作物ですので、追肥も早めに施し、初期の生育を促しますが、多肥の必要はありません。



10㎡あたりkg

3 施肥設計

肥料名 (窒素-リン酸-加里)	基 肥	追 肥		備 考
		1回	2回	
土力のおかげ堆肥	20~30			・堆肥は冬期に施しておきます。
BM苦土重焼燐 (0-35-0)	0.4			
発酵鶏糞 (2.4-7.5-4.4)	4.0~5.0			
園芸化成特1号 (14-8-13)		0.2	0.1	

※萌芽してくるまで（地面に芽が出る）は、種イモの栄養で芽が伸びます。

4 収穫

収穫後は日陰で乾かした後、できるだけ涼しく暗い所で貯蔵します。直射日光に当たると、緑色になり品質が低下するので注意が必要です。



5 病虫害防除

ナス科野菜の連作は避けます。

生育後半に曇雨天が続くと疫病が発生しやすくなります。

山間地はとくにオオニジュウヤホシテントウの発生が多いので注意します。

土壌のpHが高かったり（アルカリが強い）、石灰や未熟堆肥が多すぎるとソウカ病の発生を助長します。

6 豆知識

デンプン質が主体であるが、ビタミンC、B1が比較的多く含まれている。特にジャガイモのビタミンCは、加熱してもあまり損なわない性質を持っている。発芽した芽や緑化した皮の部分にはソラニンという毒素を含むので、明るい場所に長時間置かないようにします。

	(蒸し)	(水煮)
カロリー	84kcal	73kcal
ビタミンC	15mg	21mg
食物繊維総量	1.8g	1.6g

五訂 日本食品標準分析表より (100gあたり)